小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

三豊市立麻小学校

関連項目：教育活動プラン②、③、④

対話やかかわり方を具体的な場を通して指導する

目的

本校の児童は，自分の気持ちや考えを言葉で人に伝えることが苦手です。そこで，言葉による相互交流を生み出す学習活動を工夫し，一人ひとりの活躍の場，認められる場を増やす取組をすることにしました。

内容

● 学習活動の工夫

「伝え合う力」を中心に，共感的な人間関係の中で，自己存在感を得ることのできる授業をめざし，言葉による相互交流を生み出す学習活動になるように，授業改善をする。

（１）友だちの考えとつないだ発表

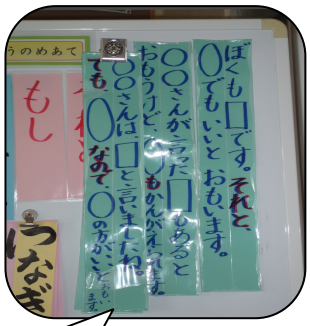
＜これまでの発言＞

ぼくは，～。
わたしは，～。
同じで，～。
違って，～。
付け足して～。

⇨

＜共感的なかかわりのある発言に＞

① 聞き手を意識した話し方
「～ですね。」「～を見てください。」
② 共感する話し方
「ぼくも，～。」「それに，～。」
「おしいです。・・は，～だけど，・・は～の方がもっといいと思います。」等



児童が意識して使えるように，話型を提示しておく。

（２）分からないことが言える学級の雰囲気と聞き方

話し手を見て聞くこと，友だちの発表に反応すること，誤答を大事にして，みんなで間違いの背景を考えることなどを学級の約束事として児童とともに決め，互いに認め合う人間関係をつくる。

～が分からないので，教えてください。
それは，～ということですか。
～と考えたのは，～だからです。（理由）

話し手を見て、最後まで真剣に聞こうとする。

（３）一問一答にならないための授業構成と資料提示

「伝え合う力」を育てるためには，かかわって話せる授業でなければならない。児童自らが比較したり事例を考えたりできるように内容や提示の仕方を工夫する。

● かかわり合いの場を増やす工夫

異学年で取り組む体育的活動や清掃活動などにおいても，かかわり合いが深まるように配慮した。活動の前にめあてを伝えたり，活動の終わりに一人ひとりが反省を話したりする場を設けた。活動中は，できるだけ上学年の児童が下学年の児童を教えるようにした。

また，教職員もいろいろな場面で，全校生と積極的にかかわるようにした。困った時には自分からしてほしいことを伝える指導を重視した。待つ姿勢を大事にし，できた時には称賛することを根気強く行うようにした。（例）職員室に入る時には，「何先生」の所に「何の用事」で来たのかをきちんと言う。

● 校内研修での交流

全職員が共通理解のもとに実践できるよう，校内研修で各自の取組を交流する。学年の発達段階を考慮し，６年間を見据えた指導になるように，できてきたことと今後の課題を明確にして取り組む。

成果

こうした取組をすることで，児童は少しずつ，大勢の前でも自分の言葉で話せるようになりました。授業では，分からないことを尋ねたり，誤答の原因をみんなで考えたりすることが自然にできつつあります。日々のあらゆる場で根気よく指導と称賛を継続することが大切だと思います。